



次代を担う人材教育について

加藤 誠一（黎明21）

問 昨年急増した小中学校のいじめ、不登校の発生状況はどうか。

答 昨年度と今年度（12月末時点）を比べると、いじめは小学校が309件から217件、中学校が36件から49件と中学校で増加し、主な原因は冷やかし、からかい、悪口等である。不登校は小学校が11人から12人、中学校が68人から70人と小中学校とも増加し、主な原因は家庭関係、学校の人間関係、学業等である。引き続き早期発見、早期解決に取り組み。

問 学校再編（統合、小中一貫）への市民の理解と対象校の準備状況は。

答 再編成計画に関する保護者説明会では、期待する声がある反面、環境が変わる子どもたちを心配する声等、様々な意見をいただいた。地域協議会では、より切実な戸惑

いや不安の声もあったが、基本的に賛同いただいた。現在、学校運営委員、保護者、地域代表等による準備委員会や専門部会を設置し検討しており、引き続き慎重に進めたい。

防災対策の検討状況

問 台風19号被害の見舞金等の支援状況は。

答 床上浸水見舞金は55世帯、災害救助法の住宅応急修理の申込みは12件で、今後も支援を続ける。市内農地約60haの堆積稲わらは焼却やすき込み処分がほぼ完了した。

問 昨年11月のFMクマガヤとの提携内容と防災ラジオ導入の検討状況は。

答 災害発生時に本市の要請で気象情報や避難情報等を緊急放送する。防災ラジオは、防災行政無線のアナログ変換設備が必要なことや変換ノイズ問題もあり、導入した団体の状況等を注視したい。



新ごみ処理施設の建設計画の白紙解消

江川 直一（公明党）

これまで3市による広域ごみ処理新施設建設計画が、約6年進められてきたが市長は、建設予定地について疑義があるとされた。そして、市民より、鴻巣市安養寺と行田市小針の比較検討をすべきとの請願、さらに、住民投票の要望、これら市民の声を無視できないとし、結果、建設計画の白紙解消、組合の解散手続きが進んでいる。

問 建設地の比較と、計画の白紙が及ぼす市民負担について、建設費・運営費をどのように考えていたのか。

答 広域化の最大のメリットは、構成市の財政負担が軽減できることである。そのため、3市の組合を維持しつつ、市民にとつて最も負担の少ないごみ処理行政を行いたいと考え、総事業費を抑える観点から鴻巣市安養寺

地内にこだわらず、小針の市有地も候補地に加え、比較、検討すべきと提案してきた。

問 昨年12月議会で、解散は考えていない、あくまで3市が大事であるとの答弁をどのように考えているのか。

答 昨年12月12日の正副管理者会議で、鴻巣市長である原口管理者から建設計画の白紙解消の提案があり、前向きな協議ができないため、本意であるが提案を承諾した。

問 広域3市で、小針に建設できれば一番安い、北本市が小針には来ない状況の中で、3市の合意のために、どのような交渉してきたのか。

答 市民負担を一番少なくしたい。小針で建設する方が安いと判断しており、小針を候補に加え、どこが一番よいのかという形で、提案してきた。



埼玉古墳群特別史跡指定と埼玉交差点の安全対策

柴崎 登美夫（新政策研究会）

問 埼玉古墳群が国の特別史跡に指定されたが、本市の観光資源としてどのように生かしていくか。

答 埼玉古墳群の管理者である埼玉県と連携を図りながら市内外へのPRに努め、さらなる来訪者の増加につなげたい。

問 埼玉県が進めている「さきたま市場」の建設に対し、本市ではどのような働きかけや要望を行っているか。

答 庁内関係課のほか、商工会議所や地元地権者で組織するさきたま古墳公園整備地元推進協議会から意見や要望を聴取し、県主催の「さきたま市場」ゾーン検討会議で意見交換している。飲食や休憩ができ、本市の地場産業を生かせる施設や地元企業が利用できる施設を要望したところである。

問 埼玉交差点右折帯設置工事の進捗状況と今後の計画は。

答 本年1月末現在の用地取得率は約75%で、引き続き地権者の理解を得ていく。工事の進捗状況は、県道行田蓮田線約110m、県道騎西鴻巣線約40mの合計150mが完成している。来年度の計画は、埼玉東交差点から埼玉交差点に向けて歩道の整備を予定しており、令和3年度以降も引き続き道路整備を進めていく。

問 交差点工事中、迂回路となる市道の近隣住民や子どもたちの通学路と重なる場所の安全対策は。

答 地域や学校と調整するほか、生活道路へ迂回車両が進入しないよう警察とも連携を図りながら万全な安全対策を行う。

問 旧忍町信用組合店舗カフエに障害者専用駐車場を設置する予定は。

答 東側園地リニューアル工事の中で検討する。